

岩手県福祉サービス第三者評価の結果

1 第三者評価機関

名 称	社会福祉法人 岩手県社会福祉協議会	認証番号	第 2 号
所在地	盛岡市三本柳 8-1-3	評価実施期間	平成 23 年 12 月 12 日～平成 24 年 3 月 26 日

2 事業者情報

事業者名称（施設名）：みちのくみどり学園	種別：児童養護施設
代表者氏名：会長 藤澤 昇 管 理 者：園長 藤澤 昇	開設年月日 昭和 32 年 4 月 1 日
設置主体：社会福祉法人 岩手愛児会 経営主体：社会福祉法人 岩手愛児会	定員（利用人員）80 名
法人所在地： 盛岡市上田字松屋敷 11-14 TEL： 019-662-5656（代） FAX：019-663-2601 事業所：盛岡市上田字松屋敷 11-14 TEL：019-663-3171 FAX：019-663-3171	

3 総評

<p>◇ 特に評価の高い点</p> <p>○事業所が有する機能を地域に提供する積極的な取組</p> <p>広報紙「学園だより」を小中学校、町内会、民生児童委員等に配布し施設の専門機能の情報提供に努めている。「子どものふつうを考える福祉と教育と医療の会」に参画し、地域社会に対する働きかけを強めている。</p> <p>映画「葦牙」の撮影に協力し、児童養護施設や子どもが置かれている状況を社会に知らせる活動は、特筆されるソーシャルアクションである。子どもが取組む野岳太鼓の成果をイベント等で披露しているほか、施設長や職員は他団体の要請により講師対応も行うなど、施設の機能を広く社会に提供する取組を積極的に行っている。</p> <p>◇ 改善が求められる点</p> <p>○個々のサービスの標準的な実施方法の確立</p> <p>プライバシー保護マニュアル、危機管理マニュアル等、職場の共通マニュアルが徐々に整備されているが、子どもへの支援に関する標準的な実施方法、すなわち当施設におけるグループケアの方法（年齢等に応じた食事、学習、排せつ、整容等の基本的な支援方針や約束事）などの要領が文書化されていない。実際は、長年培った実施方法があり、ベテラン職員の身体に染みついているので、実態としてはサービス実施方法は確立され、現場で起きている様々な問題も対処され、支援場面で困ることはないが、職務内容の改善を図るためにも、まず基礎的、標準的な方法論の文書化が求められる。</p>

4 第三者評価結果に対する事業者のコメント

平成 24 年度の本園の運営方針として、基本方針に「国が初めて示した児童養護施設運営指針について、そのの後に示される手引き書（指針解説書）を基に私たちが日々実践している養育・ケアに整合性を持

たせ、より質の高い児童養護施設の運営に心がけ、社会に対してその任を果たしたい」としました。

今回の受審は平成 20 年度から 3 回目であり、法人内に第三者評価委員会を設置して課題の改善に取り組み、その結果を今年は特に運営方針に活かすことができました。

今回の受審の受け止め方は、子ども達個々の援助計画の生命線である「自立支援計画の策定」について、私たち職員の輻輳するチーム体制で意図する取り組みが評価され現場の志気があがりました。また、記録映画「葦牙」はプロの監督に施設を全面公開し作成しました。これは、被虐待児が施設の中で多くの専門家から否定されている集団での「育ちあい」をあえて映像化したものです。

一方子どもの権利擁護という点では、35 年目の大舎制の施設の老朽化・狭隘化・過密化のハード面の課題があり、そのことの子どもたちの率直な意見を受け止める事が出来ました。また、基本理念を掲げているが、それが個々の子ども達や家族にどのように理解・浸透しているのか判明できないとの指摘がありました。それはこれらの真摯な第三者評価に対して私たちがそれをどのように受け止め、その結果として利用者に対しての私達自身の姿勢が問われる、と思います。

今後との評価結果を踏まえ、利用者を最大限尊重する質の高い福祉サービスに努めて参ります。

5 各評価項目にかかる第三者評価結果 （別紙）